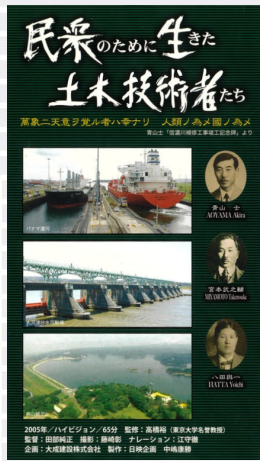


土木学会土木技術映像委員会主催

映画会

土木技術映像委員会では、前回大会に引き続き映画会を開催いたします。
これまでに収集・選定した約800本の記録映像の中から
地震や豪雨災害をはじめ映画コンクール受賞作品から
貴重映像まで、多くの優れた映像を上映いたします。



申込不要
入場無料
入退出自由

9/5(木)・9/6(金)
東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟M206

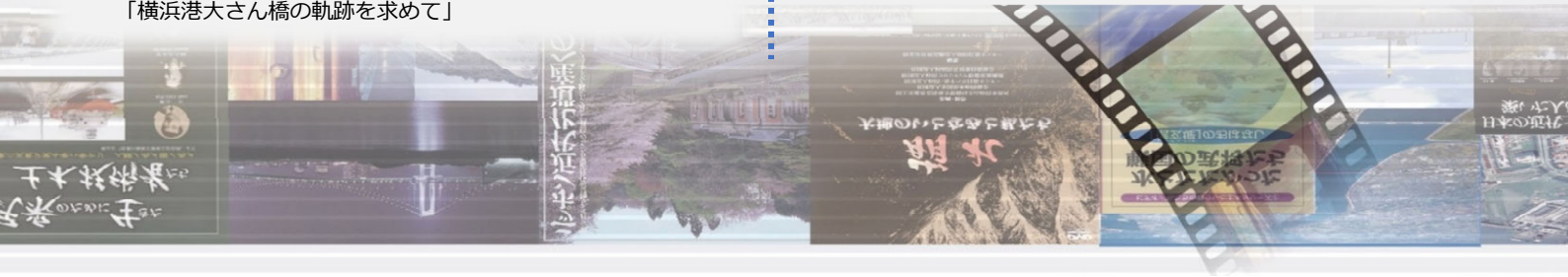
9/5(木) 上映作品

- 「なぎさ・ブリッジ ハイブリッドPC斜長橋」
- 「忘れない、東海豪雨」
- 「杜の都の地下鉄～仙台地下鉄南北線建設記録～」
- 「復旧の軌跡－阪神・淡路大震災土木施設の災害記録－」
- 「関東大震災と世界の友情」
- 「昭和34年 伊勢湾台風」
- 「球体シールド」
- 「東京湾アクアライン 海底トンネルを掘る」
- 「世界へ開く24時間 関西国際空港 海上空港の建設
着工から開港までのあゆみ」
- 「復刻版「北上川」～先人たちの復興の努力を綴る記録映画～」
- 「新形式ジョイント工法を用いた仙台空港PPC版敷設工事」
- 「横浜港大さん橋の軌跡を求めて」

9/6(金) 上映作品

- 「昭和14年秋田県男鹿地方地震の被害」
- 「河川総合開発事業 青森県 浅虫ダム」
- 「民衆のために生きた土木技術者たち」
- 「富士山を測る」
- 「未来に向けて～防災を考える～」
- 「ボスポラス海峡横断鉄道トンネル－海底をわたる風－」
- 「崩れ－大地のいとなみと私たち－」
- 「美しい海から豊かな水を 沖縄県海水淡水化センター」
- 「迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて」

詳細は上映スケジュールをご覧ください。





令和6年度 土木学会全国大会

映画会

● 映画会・上映スケジュール ●

9/5(木) ・ 9/6(金)

東北大学川内北キャンパス マルチメディア教育研究棟M206

申込不要・入場無料・入退室自由です。
CPD単位は、各上映日の作品を全てご覧いただいた方に付与いたします。
各作品の上映開始時刻は多少前後することがあります。予めご了承ください。

作品No	上映日	上映開始予定	上映時間(分)	上映作品	制作年
—		10:00		開会のご挨拶 土木技術映像委員会	
1	9/5(木)	10:06	20	なぎさ・ブリッジ ハイブリッドPC斜長橋 青森県鎌ヶ沢町の海浜公園にある人道橋が、世界初のハイブリッドPC斜長橋としてつくられた記録映画です。	2003
2		10:26	16	忘れない、東海豪雨 2000年9月11日から12日にかけて東海地方を襲った集中豪雨による大規模都市型水害の被害状況および災害復旧を記録した映画です。	2010
3		10:43	25	杜の都の地下鉄 ～仙台地下鉄南北線建設記録～ 1987年に開業した仙台市交通局の地下鉄「南北線」の路線計画から施工方法の選択、工事の様子を紹介し、完成までの道のりをたどります。懐かしい仙台市電の姿も見ることができます。	1988
4		11:09	27	復旧の軌跡－阪神・淡路大震災土木 施設の災害記録－ 1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災によって兵庫県内の土木施設は、神戸市、西宮市、淡路島北部を中心に大きな被害を受け、被害総額は1兆5千億円に上った。この作品は震災から3年後、1998年12月に兵庫県土木部（その後、県土整備部と名前を変える）が企画制作した阪神・淡路大震災の映像記録です。	1998
5		11:36	19	関東大震災と世界の友情 関東大震災の復旧に際して世界各国からの援助の手が差し伸べられた。当時の様子を古い映像記録をもとにドラマ仕立てで構成し、今後の国際的な救援・援助体制の必要性を訴える作品です。	1992
6		11:55	22	昭和34年 伊勢湾台風 昭和34年（1959年）9月26日東海地方に未曾有の被害をもたらした伊勢湾台風。その実態、緊急対策、災害復旧等を網羅し、復旧に向けた地域の不屈の努力と共に、伊勢湾台風土木技術者がどう立ち向かったのか。当時の建設省職員等のインタビューと記録映像によって描く作品です。	2009
7		12:18	15	球体シールド 従来のシールド機で不可能だった1台のマシンで、直角に掘削できる球体シールドを新しく開発して、球体中にシールド機を組み込み、自在に方向転換することが出来る機構とし、川崎市観音川と東京都花畑を結ぶ世界最初の掘削に成功し、今後の可能性について引續いて挑戦してゆくものとして期待される作品です。	1994
8		12:33	23	東京湾アクアライン 海底トンネルを掘る 川崎トンネル・川入北工事の工区において、初めて地中接合を行う手順を詳しく紹介。また、セグメント自動組立システムやシールド機相対位置検知システムなど、最新の土木技術を駆使する過程をCGを用いて判りやすく説明した作品です。	1998
9		12:56	25	世界へ開く24時間関西国際空港海上空港 の建設着工から開港までのあゆみ 今世紀最大のプロジェクトとして、建設された本格的な海上空港、関西国際空港。そこに生かされた数々の技術、空港を一つの都市として機能させる様々な施設の紹介を目的とした作品です。	1994
10		13:21	37	復刻版「北上川」～先人たちの復興の 努力を綴る記録映画～ 戦後まもない昭和23年から25年にかけて北上川の水害復興を願って製作されたフィルムを復刻した作品です。	1950
11		13:59	27	新形式ジョイント工法を用いた仙台空 港PPC版敷設工事 PPC版、バリットスラブ、枕版の工場製作から、搬送、敷設までの全行程を隈なく記録した映像で、特にPPC版の接合に当たって、日本で初めて採用されたPCジョイントの施工をクローズアップ。随所にアニメーションを使用し、新工法の立体的な解説につとめている作品です。	1999
12		14:27	30	横浜港大さん橋の軌跡を求めて 1894年に竣工した鉄橋が、どのように誕生し、拡幅され、さらに関東大震災からの復旧で大さん橋へと変わってきたか、その生い立ちから全面撤去に至るまでの歴史を解体時の技術検証シーンで詳しく解説した作品です。	1997
—		15:00		1日目 終了	

作品No	上映日	上映開始時間	上映時間(分)	上映作品	制作年
1	9/6(金)	10:00	17	昭和14年秋田県男鹿地方地震の被害 この映像は、昭和14年5月1日に発生した秋田県男鹿地方地震直後の現地の様子や、当時の土木学会から派遣されたと思われる視察団の様子が克明に記録されています。秋田市の土崎港の被災や復旧状況、浅内村の溜池の堰堤の復旧状況、さらに奥羽本線の盛土区間で発生した土砂崩れの応急復旧状況が克明に記録された無声映像です。	1939
2		10:17	29	河川総合開発事業 青森県 浅虫ダム 浅虫川治水を目的とした浅虫ダムの工事記録映像。ダムの必要性、計画時に留意した事柄、工事の様子などを総合的に分かりやすく紹介。温泉源に影響を与えないためのダム形式の検討など、綿密な計画の内容が理解できる作品です。	2002
3		10:46	65	民衆のために生きた土木技術者たち 明治の終わりから昭和の初めにかけて、土木事業を通して苦難にあえく民衆を救済する志を持ち、卓越した土木技術を駆使して難工事に挑んだ、青山士、宮本武之輔、八田與一。この映画は、彼等3人の土木技術者としての姿を描いた作品です。	2005
4		11:51	25	富士山を測る 江戸時代から現代まで、測量技術の進歩とともに精度の高い値に書き替えられてきたが、これらは山麓から間接的に測った値だった。1993年夏、初めて山頂までの徒歩による直接水準測量と、人工衛星を利用したGPS測量とで富士山の高さが検証された。その50日間に及ぶ測量の様子と人々の姿を追う作品です。	1994
5		12:17	60	未来に向けて～防災を考える～ 東日本大震災で、津波被害から多くの命を守った二つの地域の逸話を紹介します。まず、津波から村を守った岩手県普代村での高さ15メートルを超える防潮堤と水門。もう一つは、「釜石の出来事」。この作品は、震災から得た教訓として「備え」と「避難」の重要性を分かりやすく伝える内容のアニメーション映画です。	2016
6		13:17	33	ボスポラス海峡横断鉄道トンネル －海底をわたる風－ ヨーロッパ大陸とアジア大陸を隔てるボスポラス海峡に海底トンネルを造り、二つの大陸を結ぶプロジェクトを記録した映像です。トンネルは2004年8月に着工し、6年半後の2011年2月に貫通しました。海外での巨大プロジェクトを丁寧に記録した作品です。	2012
7		13:50	17	崩れ－大地のいとなみと私たち－ 山々の美しい自然に恵まれた日本、しかしその一方で大規模な崩壊地が数多く存在する現状、特に「立山カルデラ」を通じて災害の恐ろしさを伝え、砂防事業の必要性を訴える事を目的としています。地震や集中豪雨による災害が多発しており、多くの人に防災の重要性について知ってもらえる啓蒙作品としてうってつけの秀作です。	2006
8		14:07	17	美しい海から豊かな水を 沖縄県海水淡水化センター 沖縄特有の地形からくる水不足を補うための海水淡水化センターの工事記録を淡々と紹介。逆浸透膜を使った淡水化方式をわかりやすく説明している作品です。	2003
9		14:24	25	迫り来る南海トラフ巨大地震に備えて 東日本大震災は未曾有の被害と悲しい爪痕を残した。中部地方も過去幾度となく巨大地震に襲われ、南海トラフ巨大地震に直面していると言われる今、私たちは災害から学び教訓とすることが求められている。本作品は、受け継がれる巨大地震の爪痕、先人の知恵と教訓をとりあげ、巨大地震への備えの重要性を描いた作品です。	2013
—		—		閉会のご挨拶 土木技術映像委員会	
—		14:55		2日目 終了	